

平成 29 年度健康実態調査の結果について（概要）

1. 調査の目的

平成24年9月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

2. 調査期間

平成29年4月～8月末

3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している 1,588 人の認定患者（平成 29 年 3 月 31 日時点の調査対象見込者数、前年度 1,605 人）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方等を除いた 1,425 人（前年度 1,437 人）から回答を得た。

4. 調査項目

平成 20 年度に厚生労働省が実施した油症患者に係る健康実態調査の調査項目を元に、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み、治療状況、これまでににかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、平成 20 年の健康実態調査及び過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、翌年度以降の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

6. 調査結果の概要

(1) 性別

- ・男性 676 人（前年 685 人）、女性 749 人（前年 752 人）

(2) 年齢

- ・平均年齢は63.7歳（前年度65.0歳）

男性61.8歳（前年度64.0歳）、女性65.7歳（前年度66.0歳）

- ・男性は、「55～59歳」の方が17.5%（前年度17.7%）と最も多く、次いで、「60～64歳」が15.8%（前年度15.2%）、「50～54歳」が14.8%（前年度14.6%）等の順であった。

・女性は、「55～59歳」の方が16.7%（前年度16.5%）と最も多く、次いで、「60～64歳」が14.4%（前年度14.9%）、「50～54歳」が13.0%（前年度14.1%）等の順であった。

(3)生活習慣について

・1日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した方が30.8%（前年度30.3%）と最も多く、次いで、「30分～60分未満」が25.5%（前年度26.5%）、「30分未満」が23.6%（前年度24.1%）等の順であった。

・運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した方が46.0%（前年度46.4%）と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が20.8%（前年度19.8%）、「ほぼ毎日」が15.2%（前年度14.4%）、「週1回程度」が12.8%（前年度15.0%）等の順であった。

・飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した方が33.7%（前年度33.0%）と最も多く、女性では「飲まない」と回答した方が70.9%（前年度70.1%）と最も多かった。

・喫煙状況についてみると、「吸わない」と回答した方が男性37.3%（前年度34.9%）、女性85.0%（前年度85.0%）ともに最も多かった。

・睡眠時間についてみると、「6時間以上7時間未満」と回答した方が34.6%（前年度31.3%）と最も多く、次いで、「5時間以上6時間未満」が23.1%（前年度26.4%）、「7時間以上8時間未満」が20.7%（前年度17.0%）等の順であった。

・睡眠時間のとれている度合いについてみると、「まあまあとれている」と回答した方が51.4%（前年度50.2%）と多く、次いで、「あまりとれていない」が29.7%（前年度30.8%）、「充分とれている」が15.2%（前年度15.4%）等の順であった。

・労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した方が30.6%（前年度30.2%）と最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が18.6%（前年度15.4%）、「9時間以上10時間未満」が13.3%（前年度14.0%）等の順であった。

・野菜摂取量についてみると、「70g以上140g未満」と回答した方が32.8%（前年度34.6%）と最も多く、次いで、「140g以上210g未満」23.1%（前年度21.9%）、「70g未満」17.7%（前年度18.3%）等の順であった。

・常用しているサプリメント・健康食品・漢方薬の有無についてみると、17.3%（前年度25.1%）が「ある」と回答した。

(4)健康・悩み・ストレスについて

・日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した方は71.9%（前年度76.7%）であった。また、「ある」と回答した1,025人（前年度1,102人）を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因(1つ)を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が316人(30.8%)（前年度314人(28.5%)）と最も多かった。

(5)介護や日常生活動作の状況について

- ・病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、6.4%（前年度5.6%）の方が入院中若しくは入所中であった。
- ・要介護認定の状況についてみると、40歳未満の回答者を除いた1,425人（前年度1,434人）、男性676人（前年度683人）、女性749人（前年度751人）のうち、11.3%の161人（前年度170人）、男性51人（前年度50人）、女性110人（前年度120人）の方が要介護認定を受けていた。
- ・また、要介護認定を受けている方（161人）に現在利用している介護サービス（当てはまるものすべて）を質問したところ、「通所介護（デイサービス）」が39.8%（前年度38.2%）と最も多く、次いで「ホームヘルパーの訪問介護・訪問看護」が21.7%（前年度29.4%）、「特別養護老人ホームへの入所」が14.3%（前年度7.1%）等の順となっている。

(6) この1年間の治療状況について

- ・現在の受診頻度についてみると、「毎月1～3回程度」が47.2%（前年度45.9%）と最も多く、次いで「数か月に1回程度」が25.6%（前年度26.9%）等の順であった。
- ・医師の処方により継続して飲んでいる（塗っている）薬があると回答した方は、970人（68.1%）（前年度973人（67.7%））で、男性435人（68.1%）（前年度431人（62.9%））、女性535人（71.4%）（前年度542人（72.1%））であった。

(7) 油症患者受療券の所持について

- ・油症券の保有状況についてみると、油症券を持っていると回答した方は923人（64.8%）（前年度890人（61.9%））で、男性424人（62.7%）（前年度410人（59.9%））、女性499人（66.6%）（前年度480人（63.8%））であった。
- ・579人（62.7%）（前年度926人（64.4%））が、この1年間、油症券を使用せずに受診した経験があり、うち150人（10.5%）（前年度182人（18.7%））が「油症券の使用を希望する医療機関がある」と回答した。

(8) 油症検診について

- ・油症検診の昨年度の受診状況についてみると、受診したと回答した方は、523人（36.7%）（前年度542人（37.7%））であった。また、受診していないと回答した886人（62.2%）（前年度884人（61.5%））を対象に、受診しなかった理由を質問したところ、「仕事などで都合がつかなかったから」と回答した方が294人（33.2%）（前年度316人（35.7%））と最も多かった。

(9) 相談体制について

- ・油症相談員や都道府県の相談窓口への相談状況についてみると、相談したことがあると回答した方は、184人（12.9%）（前年度214人（14.9%））であった。また、相談したことがないと回答した1,215人（85.3%）（前年度1,193人（83.0%））を対象に、今後利用したい、または利用することが考えられる相談内容を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が702人

(44.1%) (前年度 637 人 (53.4%)) と最も多く、次いで「家族の病気や介護」が 298 人 (18.7%) (前年度 284 人 (23.8%))、「収入・家計・借金等」が 131 人 (8.2%) (前年度 125 人 (10.5%))、「家族又は家族以外との人間関係」が 64 人 (4.0%) (前年度 59 人 (4.9%)) の順となっている。

(10) 罹患と治療状況について

今回初めて回答する方 (37人) を対象に、これまでかかったことがある病気等の状況を調査したところ、

- ・これまでかかった悪性腫瘍 (がん) については、「腎盂がん」と「前立腺がん」がそれぞれ20%と最も多い。
- ・これまでかかった脳・精神・神経の病気・症状については、医療機関で治療中の中で「頭痛」11件 (29.7%) が最も多く、次いで「もの忘れ」7件 (18.9%) の順であった。
- ・これまでかかった自律神経系の症状については、「医療機関で治療中」は「不安神経症」5件 (13.5%) が最も多かった。「症状はあるが治療していない」は「起立性低血圧」「過敏性腸症候群」「多汗症」がそれぞれ4件 (10.8%) と最も多かった。
- ・これまでかかったのど・気管支・肺の病気・症状については、「たん」が11件 (29.7%) と最も多く、「医療機関で治療中」は5件 (13.5%)、「症状はあるが治療していない」は6件 (16.2%) だった。

過去に回答したことがある方 (1,274人) を対象に、前回の回答以降にかかった病気等の状況を調査したところ、この1年間に新たにかかった病気については、「その他 (骨・関節)」が38人 (3.0%) で最も多く、続いて「高血圧」及び「その他 (口内)」が共に27人 (2.1%) と多かった。また、これらの方々に現在の治療状況を確認したところ、「医療機関で治療中」と回答のあった方が258人 (44.6%) と最も多かった。

(11) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してもらいたいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、227人 (前年度 265人) から回答があった。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について155件 (前年度188件)
- ・職業 (仕事) に関する苦勞について5件 (前年度10件)
- ・経済的な苦勞について8件 (前年度14件)
- ・治療法の研究開発への要望、期待27件 (前年度46件)
- ・病院、医師、検診に関する要望13件 (前年度23件)
- ・行政機関に対する要望14件 (前年度36件)
- ・カネミ倉庫に対する要望7件 (前年度17件)
- ・その他 3 件 (前年度 3 件)